

Project Guideline

誰もが自由に、思うままに走れるために。

通常は伴走者の助けを得て走る視覚障がいのあるランナーの「自分の思う通りに、誰にも頼ることなく自由に走ってみたい」との思いに応え、Google AI の力で一人で自由に走ることを可能にすることを目指す Google の研究開発プロジェクトです。

システム概要



スマートフォン

走者の腰に取り付けたスマートフォンのカメラが、地面に引かれたラインを認識



画像認識 AI

Google AI がランナーとラインの位置関係を判断し、音声シグナルを送信



ヘッドフォン

コースから外れないように骨伝導ヘッドフォンからの音声ガイドでランナーを誘導

日本では全盲のランナー、御園 政光さんを最初のパートナーとして迎えてテストとフィードバックを繰り返し、2021年5月には Project Guideline の助けだけで 10km を生まれてはじめて一人で走り切ること成功。同年8月には東京2020パラリンピック開会式での演出の一環として、盲目のダンサーをガイドするパフォーマンスにも使用されました。

2022年には、障がい者と健常者がともにランやウォークを楽しむことを目指して活動するNPO法人アキレス・インターナショナル・ジャパンに技術提供。6人のチームでデジタルタスキをつなぐバーチャル駅伝レース「ASICS World Ekiden」に、視覚障がいのあるランナーが伴走者なしで参戦するという挑戦をサポートしました。結果は、6人のランナー全員が Project Guideline の助けだけでタスキをつなぎ、42.195kmを4時間29分44秒で完走。世界中から参加した健常者のチームとも互角に渡り合いました。

そして2024年、横浜市の障害者スポーツ文化センター横浜ラポールの協力のもと Project Guideline は新たな一歩を踏み出しました。横浜ラポールの地下トラックに Project Guideline を導入し、視覚障がいのあるランナーの方が Project Guideline を体験できるプログラムを定期的実施しています。それによって、より多くのランナーの方に「自由に、一人で走れる」体験をしていただき、Project Guideline をよりよい技術としていくためのご意見をいただける環境を整備していきます。また、同様に Project Guideline を施設に導入し、視覚障がいのあるランナー向けの体験プログラムを提供する全国の自治体や団体のパートナーを募集しています。

現在もさらなる技術開発とユーザー体験の改良のため、当事者を含むコミュニティと協業する形での研究開発を進めています。



プロジェクトの詳細は
ウェブサイトをご覧ください。

g.co/ProjectGuidelineJP



Project Guideline

パートナーシップの ご案内



より多くの方に「自由に、思うままに走る」体験を

Project Guideline では、当事者を含むコミュニティと協業する形での研究開発を進めると同時に、より多くの視覚障がいのある方が「自由に、思うままに走る」ことのできる環境を作るための活動を続けています。

現在、横浜市の障害者スポーツ文化センター横浜ラポールの協力により、Project Guideline をより多くの皆様に体験していただくプログラムを実施しています。

今後も施設への導入や視覚障がいのあるランナー向けの体験プログラムを提供する全国のパートナーを募集しています。

関心のある自治体や団体の方はパートナー募集フォームからご連絡ください。

Our Partners



筑波大学附属視覚特別支援学校



パートナーシップにご興味ある自治体や団体の方は、こちらのフォームからお問い合わせください

